

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400365		
法人名	特定非営利活動法人 ありがとう		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	紋別郡遠軽町西町2丁目1番地218		
自己評価作成日	平成23年2月8日	評価結果市町村受理日	平成23年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175400365&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>遠軽町西町地区の団地が建ち並ぶ住宅街に位置した当事業所は、1階建て2棟2ユニットで、裏山は山菜の宝庫などの自然に恵まれた環境に立地しています。ユニット毎異なった建物になっていますが、共有空間は明るく、広々とした開放感のある造りで、リビングは観葉植物や季節毎の飾り付け、また、毎月利用者と職員と一緒に作成したカレンダーが飾られ、家庭的な落ち着いた雰囲気になっています。理念に「安心」「自由」「主人公」「楽しく」を掲げ、利用者が安心して自由に主人公として楽しく暮らせるよう、職員は常に理念に立ち返りながらケアの実践に取り組んでいます。施設長は職員の離職をきっかけにケアマネージャー、ユニットリーダーを通じ新人を含めた職員教育に力を注ぎ、ミーティング時などの職員の意見を大切にすると共に、勤務体制は日中最大4名、身体的介助の多い1号棟は夜勤2名体制を確保するなど職員が生き生きと働ける環境整備に努めています。また、職員の意識自体が事業所を良くしよう、頑張ろうと意欲的で現場を変えようと取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を大切に、日々楽しく過ごせるようにしている	理念を事務所やリビングに掲示し、職員は利用者が安心して自由に、そして、主人公として楽しく暮らせるように常に理念を意識し、ケアの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも入会しており、地域の方々には、いつも声をかけて頂いている	町内会に加入し、廃品回収や花壇作りに町内会の一員として参加しています。事業所行事には近隣住民に声をかけたり、日常的に茶碗洗い等に来てくれる住民やボランティアの来訪もあり、近隣に住む人たちとふれあう機会も多く、交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を交えた運営委員会を開き、より理解して頂くよう努力しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	焼き肉パーティーと会議を同時に行い、利用者の状態を見て頂き御意見を頂いている	家族代表、町職員・保健師、地域包括支援センター職員、近隣住民等を構成員とし、運営推進会議を開催し、事業所の現状報告等や会議の中で昼食会を実施するなど意見を貰い、サービス向上に繋げています。	今後も地域の理解や協力が得られる貴重な機会とし、定期開催(年6回)を目指すと共に、参加できない家族にも情報共有が出来る手段として、会議録を配布するなどの工夫を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月地域包括支援センターと連絡を取りあっておりますし、福祉課の方にも運営委員になっていただいています。	町担当者とは運営推進会議や様々な機会を通じ、協力関係を築いています。また、地域包括支援センターとは毎月事業所の待機状況について伝えるなどで連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員は、十分理解し拘束等においてはおこなっていません	事業所内のリビングや廊下等のあらゆる所に身体拘束廃止の基本方針(介護の10ヶ条)を掲示し、全職員が日々、共有認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを常に近くに置き、スタッフは互いに声をかけあうようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ不十分で、今後学ぶ機会を設けたいと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分時間をかけ説明し、疑問点など相談している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望に対しては所長を中心に相談している	家族の来訪時に常に問いかけ、何でも行って貰える雰囲気作りを心掛けています。出された意見や要望については施設長を含め話し合い、運営に反映させています。職員の入れ替わりもあり、新年度に向け職員紹介を予定しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員との会話を大切にし、意見や提案は聞くようにしている	施設長は日頃から職員との会話を大切にし、コミュニケーションを図るよう心掛けると共に、ミーティング時を職員の意見を聞く機会としています。職員はお互いに助け合い、学び合うなど良好な関係を築いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金を申請し、給与等に役立てている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町内で行われる研修会に参加したり、施設内では口腔ケア研修をしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣町村の施設の方々が見学にみえ、意見交換し、今後、スタッフ研修も取り入れていきたいと考えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のケアマネージャーと情報交換し、すぐに入所するのではなく、ショートステイなど利用して頂いて、利用者との関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者同様、家族と会い十分話合うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望する支援を理解し、対応に努めていきたい		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を家族と思い、共に生活していくように心がけている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を理解し、家族と共に本人を支えています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までお付き合いしてきた、近郊の友人などに来所して頂いたり、外出して関係が切れないうよう支援につとめている	利用者のこれまでの生活継続を支援し、友人の来訪や理美容院へ出掛けたり、家族との外出や外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常や食事の座席など工夫し、孤立せずようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の要望に応えるように努力しています(送迎の希望がありお応えしました)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の希望を聞き、出来るだけ希望に近づけるように努力している	職員は利用者との日々の関わりの中での会話や家族の情報などから思いをくみ取り、希望に添えるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、家族より話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で様子を確認するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、スタッフと共に利用者の情報を共有して、計画を作成している	毎月のモニタリングやカンファレンス、サービス担当者会議の中で、ケアマネージャーが職員の意見や情報、家族の意見を取り入れ、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々気づいたことを、別紙に記録しカンファレンスを行い計画の追加、変更をおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望にお応えして、柔軟な対応をおこなっている(自宅送迎、買い物等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のコスモス園、いこいの森などに出かけています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する際は、スタッフが同行し医師からの指示をうけている。指示の変更があるときは、家族に連絡するよう心がけている	事業所の協力医療機関が利用者のかかりつけ医であり、職員が通院・受診支援を行なっています。その都度家族には、受診・投薬結果を報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、来所して頂く看護師に利用者状況を説明し、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、スタッフが同行し生活情報を伝え、入院中は利用者の状況を確認するよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの講習会を開催し、家族との話し合いもおこなっている	契約書・重要事項説明書と合せて重度化終末期の対応指針を書面にて説明し、同意書を取り交わしています。必要になった場合、利用者・家族・かかりつけ医と情報を共有し支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を全員受講している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回おこなっている(1回夜間想定)	消防署が立会い年1回夜間想定 of 通報・避難訓練を実施しています。事業所の規模ではスプリンクラー設備が対象外ですが今回設置して災害に対応する取り組みがあります。	年2回の避難訓練の実施と、地域密着型として避難に際して職員だけでなく、地域の方達に利用者を選難させる為の協力への必要性を伝え、理解して貰える工夫することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳をもつた言葉かけに注意するよう心かけている	施設長・管理者、職員は利用者の尊厳に配慮した言葉掛けに留意し、毎月のミーティング時にも確認を行なっています。日誌の記入も見守りながら記入し、個人情報保護の同意書を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には、否定的な言葉をかけないように注意している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースで生活するよう努力しているが、往々にして職員ペースになりがちである		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度のペースで、美容室に依頼している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を食材に献立を作成し、利用者とは片付けもしている	献立は職員が決めており、職員と共に利用者も下ごしらえや後片付け・食器拭きをしています。職員とテーブルを囲み家族的な雰囲気の中で食事を楽しみ、利用者に喜んで貰える様取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個人ファイルに記入し、不足の時はゼリーなどで補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	講習会を行い、毎食後口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を決め誘導している	日誌や排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握する中でパターンに応じた声掛けや自立に向けたトイレ誘導介助を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数、日数を記入し申し送り等が必要に応じて下剤を投与している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できるようにしている 各自、入浴チェックにより入浴している	曜日や人数に関係なく週2回以上は利用者の体調や希望に考慮した入浴介助を行っています。入浴拒否がある場合、時間を置いたり、利用者を尊重した対応を心掛け、入浴を楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間などはありますが、利用者に応じて変更している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などは、個人記録にファイルし確認できるようにしている 毎日服用する薬は、スタッフが準備している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の編み物、花植えなどして過ごしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材、おやつなど買い物に出かけるようにしている 町外にも利用者とドライブにも出かけている	天気や体調に配慮しながら散歩をするなど外気浴や戸外へ出ることを積極的に行っています。散歩時に近隣住民と挨拶を交わすなどの交流を行なっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、小遣いを預かり、買い物の際に使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が作成した品物、手紙など発送したりしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、月のカレンダーを利用者と作り、季節の行事にあわせて飾り付けしている	リビングダイニングには手作りのカレンダーや季節の飾り付け・ありがとう通信・行事の写真が飾られ家庭的な落ち着いた雰囲気となっています。湿度に気を配り、加湿器を使用しながら快適な環境を提供しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあつた利用者同士で各部屋を行き来し、会話を楽しんでいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、使い慣れた道具等を持参してもらっている	居室には利用者の布団やベット・テレビ等が持ち込まれ、壁には家族の写真や作品を飾り、利用者の今までの暮らし方を大切に支援に取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自部屋には、名前を付け廊下、トイレなどには自立歩行の手助けになるように、手すりをつけている		